

# 1101. Normed ring = 就イテ I

近藤 基吉

近來 normed ring の理論デハ J. Gelfand  
commutative normed ring の論文又 J. v.  
Neumann - F. J. Murray, ring of operators  
ノ論文等が出テ居ルガ、此等ノ結果ノ中デ一様ドレダケノモ  
ノガ一般ノ normed ring デ成立ツデアラウカ。又、既  
ニ抽象代数学デ得ラレテ居ル環ニ關スル結果ノ中デ、ド  
レダケノモノヲ一般ノ normed ring ニ擴ゲウルデア  
ラウカ。ユノマウナ間ハ十命知ラレテ居ルコトカモ知レナイ  
ガ、一應シラベテオクコトガ此ノ方面ノ研究ヲナス上ニ大事  
デハナイカト思フ。其ノマウナ意味デコノ方面ノ結果ヲ少シ  
調べテ居ルガ、判ツタコトヲ書イテ見タイト思フ。コレハ発  
表スルホドノ事デナイカモ知レナイガ、結果ヲマトメルタメ  
ニ書ク次第デアル。

今回ハ normed ring = 關係スル各種ノ概念デ  
基本的ト思ハレルモノヲ列ベルコトニシタ。此処デ上  
ゲタ他ニモ各種ノ基本概念ガアルガ、夫ヲ準備  
ヲ要スルノデ必要ニ應ジテアタヘテ行クコトニス  
ル。

## §1. 定義

此の *normed ring* の定義ヲ與ヘテ置カウ。集合  $R$  ノ條件

1°  $R$  ハ加群デアール。

2°  $R$  ノ任意ノ二ツノ要素  $A, B$  = 對シテ其ノ積  $AB$  ハ再ビ  $R$  = 屬シ、次ノ性質ヲ有スル。

$$(a) \quad (AB)C = A(BC)$$

$$(b) \quad (A+B)C = AC + BC,$$

$$C(A+B) = CA + CB,$$

3°  $R$  ノ任意ノ要素  $A$  ト任意ノ複素数  $\alpha$  トノ積  $\alpha A$  ハス  $R$  = 屬シ、次ノ性質ヲ有スル。

$$(a) \quad (\alpha + \beta)A = \alpha A + \beta A,$$

$$\alpha(A+B) = \alpha A + \alpha B.$$

$$(b) \quad (\alpha\beta)A = \alpha(\beta A), \quad (\alpha A)(\beta B) = \alpha\beta AB$$

$$(c) \quad 1A = A, \quad 0A = 0$$

4°  $R$  ノ各要素  $A$  = ハ其ノ絶對値 ——  $|A|$  デ示ス —— ト呼バレル實數ガ對應シ、次ノ性質ヲ有スル。

(a)  $|A| \geq 0$  . シカモ  $A=0$  ノトキ = 限ツテ  $|A|=0$  デアール。

$$(b) \quad |A+B| \leq |A| + |B|$$

$$(r) \quad |AB| \leq |A||B|$$

ヲ満足スルヲ *normed ring* ト云フ。

$R$ ノ複素数ヲ係数域トスル環デアラカラ、環ニ關スル各種ノ概念ヲ $R$ ノ上ニ導入スルコトが出来ル。然レ、夫レ等ハ省イテ特ニ絶対値ニ關係スルモ、ヲ此処デ述ベテ置ク。

$R$ ノ要素 $E$ デ條件  $\square R$ ノ各要素 $A =$  對シテ  $AE = EA = A$ デアアル  $\square$ ヲ満足スルモノガアレバ、ソレハ唯一ツデアアル。コレヲ $R$ ノ代數的單位要素ト云フ。コノトキニハ  $|E| = |E^2| \leq |E||E|$ ヨリ  $|E| \geq 1$ デアアルガ、特ニ  $|E| = 1$ デアレバ、 $E$ ヲ $R$ ノ單位要素ト呼ブコトニスル。 $R$ ニ單位要素ノ存在シナイトキニハ  $R$ ニ新ラシイ要素 $E$ ヲ添加シテ得ラレル環  $R|E|$ ガ再ビ *normed ring* デシカモ  $E$ ガ其ノ單位要素デアアルモノニ出来る。夫レニハ  $E$ ヲ與ヘテ

$$1^\circ \quad AE = EA = A \quad (A \in R), \quad E^2 = E$$

$$2^\circ \quad |\lambda E + A| = |\lambda| + |A|$$

トスレバ十分デアアル。又、 $R$ ノ要素  $E_L, E_R$ デ條件  $\square R$ ノ各要素 $A =$  對シテ  $AE_L = E_L A = A$ デアアル  $\square$ ヲ満足スモノが存在スレバ、夫レ等ヲ夫々  $R$ ノ右及ビ左ノ代數的單位要素トイフ。一般ニハ  $|E_L|, |E_R| \geq 1$ デアアルガ、特ニ  $|E_L| = |E_R| = 1$ ニ等シイトキニ夫レ等ヲ $R$ ノ右及ビ左ノ單位要素ト呼ブ。

次に、 $R$  が (代数的) 単位要素  $E$  を含む場合を考へル。

$R$  の要素  $A$  へ對シテ

$$A A^{-1} = A^{-1} A = E$$

ヲ満足スル  $A^{-1}$ ,  $A^{-1}$  が存在スレバ、コレ等ヲソレゾレ  $A$  の右及び左ノ (代数的) 逆要素ト呼ビ、更ニコレ等が互ニ相等シイトキ一夫レヲ  $A$  の (代数的) 逆要素ト名付ケ  $A^{-1}$  デ示ス。又、 $R$  の要素ヲ (代数的) 逆要素ノ存在スルモノヲ  $R$  の (代数的) 正則要素ト呼ブ。更ニ  $R$  の要素  $A$  へ

$$|A| = |A^{-1}| = 1$$

ヲ満足スモノヲ  $R$  の單位的要素ト名付ケヨウ。

次に、 $R$  の任意ノ二ツノ要素  $A, B$  へ對シテ

$$dis(A, B) = |A - B|$$

トスレバ、 $dis(A, B)$  へ關シテ  $R$  の距離空間トナル。  $R$  のコノ topology を uniform ト呼ブ。

$R$  の uniform topology へ關シテ完備デアルトハ限ヲナイガ、完備デアレバ uniformly complete デアルト云フ。尚、uniformly complete デナケレバ Cauchy の方法ニヨツテ uniformly complete へスルコトガ出来る。

$A \neq B$ ,  $A, B$  の共ニ  $R$  の uniform topology へ關シテ  $A, B$  の連続函数デアリ、 $\alpha A$  へ  $\alpha$ ,  $A = B$  用シテ連続デアレル。又、 $|A|$  へ  $A$  の連続函数デアレル。

今、連続性に関するコーシー等値性を利用して逆要素の存在、問題を考へる。Rが代数的単位要素Eを有する uniformly complete normed ring とする。

補助定理1.  $|A| < 1$  のとき  $E - A$  は代数的逆要素を有する。

証明.  $S_n = \sum_{k=0}^n A^k$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) とすれば,  $n > m$

に対して

$$\begin{aligned} |S_n - S_m| &= |A^{m+1} + \dots + A^n| \\ &\leq |A|^{m+1} + \dots + |A|^n \leq \frac{\rho^{m+1}}{1-\rho} \end{aligned}$$

(但し,  $|A| = \rho < 1$ ) であるから, Rの完備性より

$\lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \sum_{k=0}^{\infty} A^k$  (= B と置く) が存在する。然る

=

$$(E - A)S_n = S_n(E - A) = E - A^{n+1}$$

であるから  $\lim_{n \rightarrow \infty} A^n = 0$  であるから  $(E - A)B = B(E - A) = E$  即ち,  $E - A$  は代数的逆要素を有する。

$A \in R$  が (代数的) 正則要素であれば  $\mathfrak{A}^{-1}$   $\mathfrak{A} = A^{-1} \mathfrak{A}$  とすれば, コレは R で連続である。従って A の近傍  $\mathcal{U}(A)$  を選んで  $\mathfrak{A} \in \mathcal{U}(A)$  の時 =

$$|\Psi(A) - \Psi(X)| = |E - A^{-1}X| < \rho < 1$$

デアールマウ = 出来る。夫レ故ニ、 $E - A^{-1}X = B$  トスレバ

$E - B = A^{-1}X$  ハ補助定理 / ヨリ (代数的) 逆要素ヲ有ス

ル。夫レヲ  $C$  トスレバ、 $(CA^{-1})X = C(A^{-1}X) = E$  デア

ル。一方ニテ

$$X(CA^{-1}) = A(A^{-1}XC)A^{-1} = E$$

デアールカラ、 $X$  ハ (代数的) 逆要素ヲ有スル。即チ、

$A$  / 近傍 = アル要素ハ (代数的) 正則デアール。

今、 $R$  / (代数的) 正則要素 / 全体 / 作ル集合ヲ  $\mathcal{O}$  トスル。  $\mathcal{O}$  ハ開集合デ、シカニ乗法 = 閉シテ群ヲナシテ居ル。

次ニ、 $\mathcal{O}$  デ  $\Psi(X) = X^{-1}$  ヲ考ヘヨウ。  $X, A \in \mathcal{O}$  / 時ニハ

$$\Psi(X) - \Psi(A) = X^{-1} - A^{-1} = (X^{-1}A - E)A^{-1}$$

$$= \sum_{n=1}^{\infty} (E - A^{-1}X)^n A^{-1}$$

デアールカラ、 $|X - A| < \rho < |A^{-1}|^{-1}$  トスレバ

$$|\Psi(X) - \Psi(A)| \leq \sum_{n=1}^{\infty} |E - A^{-1}X|^n |A^{-1}|$$

$$\leq \sum_{n=1}^{\infty} |A^{-1}|^{n+1} |A - X|^n < \frac{|A^{-1}|^2}{1 - |A^{-1}|\rho} \rho$$

トナル。従ッテ  $\Psi(X)$  ハ  $\mathcal{O}$  デ連続デアール。以上ノ結果ヲ次ノ様ニ述ベルコトが出来ル。

定理 1.  $R$  が代数的単位要素を有する uniformly complete normed ring とすれば,  $R$  は代数的正則要素, 全体ノ作ル集合  $\mathcal{A}$  は  $R$  が稠い居テ,  $\mathcal{A}$  にも乗法ニ関シテ位相群ヲ有シテ居ル。又  $\mathcal{A}^{-1}$  は  $\mathcal{A}$  ニ於テ連続デアール。(1)

$R$ , 部分集合  $R_0$  が再び環ヲ有シテ居ルモノヲ  $R$  の代数的部分環ト呼ビ, 特ニ uniform topology ニ関シテ  $R$  内閉ガテ居ルモノヲ  $R$  の部分環ト呼ブ。uniformly complete normed ring の subring は uniformly complete デアール。

次ニ,  $R_1, R_2$  二ノ normed ring  $R_k (k=1, 2)$  を考へル。  $R_1$  内各要素  $A_1 = R_2$  内要素  $A_2$  ヲ對應セシメル寫像ヲ  $A_1 + B_1 = A_2 + B_2$  ヲ,  $A_1 B_1 = A_2 B_2$  ヲ,  $\alpha A_1 = \alpha A_2$  ヲ對應セシメルモノヲ algebraic homomorphism ト云ヒ, 又  $R_1$  中ニ uniform topology ニ関シテ連続ナルモノヲ uniform homomorphism ト云フ。更ニ,  $R_1$  中ニ開集合ヲ開集合ニ寫スモノヲ open uniformly homomorphism ト名付ケルコトニスル。

(1) M. Nagumo, Einige analytischen Untersuchungen in linearen metrischen Ringen. Japanese Jour of Math. vol. VIII. 1936

又,  $R_1$  と  $R_2$  との間, algebraic homomorphism が一対一対応  $\varepsilon$  があり algebraic isomorphism と呼ばれ, コレが uniform topology に関して両側連続であればこの寫像を uniformly isomorphism と云う。スルと, 次, 補助定理が成立す。

補助定理 2.  $R_k$  ( $k=1, 2$ ) が uniformly complete normed ring とスルトキ  $\varepsilon$ ,  $R_1$  が  $R_2$  へ寫す algebraic isomorphism  $g(x)$  が  $\varepsilon$  に関して連続であれば,  $R_1$  と  $R_2$  とは uniformly isomorphic である。

証明, S. Banach の定理  $\varepsilon$  により自明であるが有效である。

次  $\varepsilon$ ,  $R_1$  と  $R_2$  との間, uniformly isomorphism が  $|A_1| = |A_2|$  が成立す  $\varepsilon$  あり isometrically isomorphism と名付ケル。  $R_1$  が uniformly complete とスルトキ  $\varepsilon$ ,  $R_1$  の isometrically isomorphism へ關スル像は又 uniformly complete である。

更  $\varepsilon$ ,  $R_1$  が夫自身の中へ寫す algebraic 又は uniformly isomorphism へ algebraic 又は uniformly automorphism と名付ケル。

isometrically automorphism  $\varepsilon$  同様  $\varepsilon$  定義スル。  $U$  が單位的要素とスルトキ  $\varepsilon$   $X \rightarrow U^{-1} X U =$  寫



ス寫像ハ *isometrically automorphism* ナ  
 ール。

次ニ、 $R_1$  ノ各要素  $A_1 = R_2$  ノ要素  $A_2$  ヲ對應セシメ  
 ル寫像デ  $A_1 + B_1 = \wedge A_2 + B_2$  ナ、 $A_1 B_1 = \wedge B_2 A_2$  ナ  
 對應セシメルモノヲ *algebraic anti-homomorphism*  
 ト呼ビ、コレガ *uniform topology* = 閉シテ連  
 續デアレバコレヲ *uniformly anti-homomorphism*  
 ト云フコトニスル。同様ニシテ、*anti-isomor-*  
*phism* 及ビ *anti-automorphism* ヲ定義ス  
 ル。

今、 $R$  上ノ *uniformly anti-automor-*  
*phism* ヲ考ヘル。 $R$  ノ要素  $A$  ヲ對應スルモノヲ  $A^*$  ト  
 スレバ

$$(A+B)^* = A^* + B^* \quad (AB)^* = B^* A^*$$

デアツテ、 $A = A^{**}$  ナ對應セシメル寫像ハ  $R$  上ノ  
*uniformly isomorphism* デアル。此処デ特  
 =

$$|A| = |A^*|, \quad A^{**} = A$$

ノ成立ツトキニ、 $R$  ヲ *involutated ring* ト呼ブコ  
 トニスル。コノ場合ニ  $(\alpha A)^* = \bar{\alpha} A^*$  デアレバ、 $R$   
 ハ *proper* デアルト云ヒ、 $(\alpha A)^* = \alpha A^*$  デアレバ、  
 $R$  ハ *improper* デアルトイフコトニシヨウ。更ニ、  
 此ニ等ノ場合ニ  $A = A^*$  ナ要素  $A$  ヲ *hermitian* ト名

付ケル。  $A + A^*$  及ビ  $AA^*$  / hermitian デアルコトハ  
自明デアール。

次ニ  $R$  / 部分集合  $\mathcal{I}$  デ条件

1°  $A, B \in \mathcal{I}$  /  $\alpha A + \beta B \in \mathcal{I}$  デアル。

2°  $R$  / 任意 / 要素  $A = \sum \lambda_i A_i$   $A_i \in \mathcal{I}$  デアル。

ヲ満足スルモノヲ右 algebraic ideal ト云ヒ、同  
様ニ左 algebraic ideal、両側及ビ片側 al-  
gebraic ideal ヲ定義スル。更ニ、コレ等 / ideal  
ノ中デ uniform topology = 閉シテ開チタモノ  
ヲ右 ideal、両側 ideal 等、様ニ algebraic ト云  
フ形容詞ヲ除イテ呼ブコトニスル。

$R$  / 右 (左又ハ両側) / (algebraic) ideal  $\mathcal{I}$   
(0) 及ビ  $R$  ト果ナリ、夫レヲ含ム右 (左又ハ両側) /  
(algebraic) ideal  $\mathcal{J}$   $\mathcal{I} \subset \mathcal{J}$  /  $\mathcal{I}$  /  $R$  / ミノモノヲ右 (左又ハ両  
側) / 最大 (algebraic) ideal ト名付ケル。スルト  
次 / 定理ガ得ラレル。

定理 2  $R$   $\mathcal{I}$  代数的單位要素ヲ有スル uniformly  
complete normed ring トスルトキニ、 $R$  /  
右 (左又ハ両側) / 最大 algebraic ideal  $\mathcal{I}$   $\mathcal{I}$  uni-  
form topology = 閉シテ開チテ居ル。従ツテ夫レ  
ハ  $R$  / 右 (左又ハ両側) / 最大 ideal デアル。又、 $R$   
/ 任意 / 右 (左又ハ両側) / algebraic ideal  $\mathcal{I}$   $\mathcal{I}$  含  
ム右 (左又ハ両側) / 最大 ideal  $\mathcal{J}$   $\mathcal{I} \subset \mathcal{J}$   $\mathcal{J}$  存在スル。

証明.  $\mathcal{I}$  は  $R$  の右最大 ideal トスルトキ =  
 $R$  の代数的正則要素ノ全体カラナル集合  $\mathcal{O}$  = 對  
シテ  $\mathcal{I} \subseteq R - \mathcal{O}$  デアル. トコロデ, 定理1ヨリ  
 $R - \mathcal{O}$  ノ uniform topology = 閉シテ閉チテ  
居ルカラ,  $\mathcal{I}$  ノ uniform topology = 閉スル  
閉被  $\bar{\mathcal{I}}$  ノ  $R - \mathcal{O}$  = 含マレ, 従ツテ  $\bar{\mathcal{I}} \neq R$  デアル.

然ルニ,  $\bar{\mathcal{I}}$  ノ右 ideal デアル. 何トナレバ,  $\mathcal{I}$  ノ  
 $R$  = 於イテ linear デアルカラ  $\bar{\mathcal{I}}$  = 亦  $R$  = 於イテ  
linear デアル. 次ニ,  $A \in R$  = 對シテ  $B \in \bar{\mathcal{I}}$  ヲ考ヘル.  
 $B \in \mathcal{I}$  デアルバ,  $BA \in \mathcal{I} \subseteq \bar{\mathcal{I}}$  トナル.  $B \in \bar{\mathcal{I}} - \mathcal{I}$  デ  
アルバ,  $B_n \in \mathcal{I}$  ( $n=1, 2, \dots$ ) ヲ求メテ  $B_n \rightarrow B$  uni-  
formly ト出来ル. 従ツテ,  $B_n A \rightarrow BA$  uniformly  
が得ラレバ  $BA \in \bar{\mathcal{I}}$  デアル. 即チ,  $\bar{\mathcal{I}}$  ノ右 ideal デ  
アル.

此処デ  $\mathcal{I} \subseteq \bar{\mathcal{I}} \neq R$  デアルカラ,  $\mathcal{I}$  ノ最大性ヨリ  
 $\mathcal{I} = \bar{\mathcal{I}}$  トナル. 即チ,  $\mathcal{I}$  ノ uniform topology =  
閉シテ閉チテ居ル. 左及ビ両側ノ最大 ideal = ツイテモ  
同様デアル.

次ニ, 右 (左又ハ両側ノ algebraic ideal ヲ含ム右  
(左又ハ両側)ノ最大 ideal ノ存在ハ  $R$  ノ連続性 = 關係  
トク代数的 = 証明サレルカラ, 此処デハ夫レヲ省ク.

(証明完了)

今, 最大 ideal ノ一ツノ利用トシテ正則要素ノ存

范 = 閉スル次ノ系ヲ興ヘテ置カウ。

系.  $R$ ヲ (代数的) 単位要素ヲ有スル *uniformly complete normed ring* トスルトキニ,  
 $A \in R$ ガ (代数的) 正則要素デアルガキニ = 必要且ツ十分ノ条件ハ  $A$ ガ右及ビ左ノ最大 *ideal* = 合マレナイコトデアル。

次ニ,  $\mathfrak{I}$ ヲ  $R$ ノ両側 *ideal* トスルトキニ,  $A - B \in \mathfrak{I}$ デアアレバ  $A \equiv B \pmod{\mathfrak{I}}$ ト書キ  $A, B$ ハ  $\mathfrak{I}$ ヲ法トシテ合同デアレト云フ。スルト,  $A \equiv A', B \equiv B' \pmod{\mathfrak{I}}$ ヨリ  $A + B \equiv A' + B', AB \equiv A'B' \pmod{\mathfrak{I}}$ ガ得ラレル。又,  $\mathfrak{I}$ ヲ法トシテ  $A$ ト合同ナル要素ノ集合ハ *uniform topology* = 閉シテ開キテ居ルガ、コレヲ  $\mathfrak{I}$ ヲ法トスル剰餘類ト呼ビ  $R_A = \mathfrak{I}$ ヲ示ス。其処デ

$$|R_A| = \inf_{X \in R_A} |X|$$

トスレバ, 次ノコトガ云ハレル。

$$1^\circ |R_A| \leq |A|$$

$$2^\circ |\alpha R_A| = |\alpha| |R_A|$$

$$\begin{aligned} 3^\circ |R_A + R_B| &= \inf_{X \in R_A + R_B} |X| = \inf_{Y \in R_A, Z \in R_B} |Y + Z| \\ &\leq \inf_{Y \in R_A} |Y| + \inf_{Z \in R_B} |Z| = |R_A| + |R_B| \end{aligned}$$

$$4^\circ \quad |K_A K_B| = \inf_{X \in K_A K_B} |X| = \inf_{Y \in K_A, Z \in K_B} |YZ|$$

$$\leq \inf_{Y \in K_A} |Y| \inf_{Z \in K_B} |Z| = |K_A| |K_B|$$

5°  $|K_A| = 0$  トスレバ,  $X_n \in K_A$  ( $n = 1, 2, \dots$ ),

$$\lim_{n \rightarrow \infty} X_n = 0$$

ヲ満ス  $X_n$  が存在スル。然ルニ,  $X \in K_A$  = 對シテ

$X - X_n \in K_A$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) ナアルカラ

$$\lim_{n \rightarrow \infty} (X - X_n) = X \text{ ハ } K_A \text{ = 含マレ } K_A = K_A \text{ が得ラ}$$

レル。

10 - 5° ヨリ 剰餘類ノ全体ノ作ル集合ハ再ビ *normed ring* ヲナスコトガ判ル。コレヲ  $R$  ノ  $K_A$  ヲ法トスル 剰餘類環ト云ヒ,  $R/K_A$  ナ示ス。此ノ環ニ就イテ更ニ次ノコトガ成立スル。

6°  $R$  ガ 單位要素  $E$  ヲ有ストキニハ,  $K_E$  ハ  $R/K_A$  ノ 單位要素デアル。

何トスレバ,  $K_E$  ハ  $R/K_A$  ノ 代數的單位要素デアルカラ  $|K_E| \geq 1$  が得ラレル。トコロヲ,  $1^\circ = 1$  ヲツテ  $|K_E| \leq |E| = 1$  デアルカラ  $|K_E| = 1$  が成立ツ。即チ  $K_E$  ハ  $R/K_A$  ノ 單位要素デアル。

7°  $R$  ガ *uniformly complete* デアレバ,  $R/K_A$  ハ又サウデアル。

証明.  $\{r_{A_n}\}$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) を考へル.  $\varepsilon > 0 =$   
 對シテ  $N$  を選ンテ  $n, m \geq N$  の時 =

$$|r_{A_n} - r_{A_m}| < \varepsilon$$

デテ此様ニナシ續クトスル. スルト, 部分列  $\{r_{B_n}\}$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) を選ンテ  $\sum_{n=1}^{\infty} |r_{B_n} - r_{B_{n+1}}| < +\infty$  ト出来ル. トコロデ,  $x_1 \in r_{B_1} =$  對シテ  $x_2 \in r_{B_2}$  を選ンテ

$$|x_1 - x_2| \leq 2|r_{B_1} - r_{B_2}|$$

ト出来ル. 同様ニ  $x_3 \in r_{B_3}$  を定メテ

$$|x_2 - x_3| \leq 2|r_{B_2} - r_{B_3}|$$

ト出来ル. コノ様ニシテ  $\{x_n\}$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) を決定ス

$$\text{ルニ, } \sum_{n=1}^{\infty} |x_n - x_{n+1}| \leq 2 \sum_{n=1}^{\infty} |r_{B_n} - r_{B_{n+1}}| < +\infty \text{ デア}$$

ルカラ,  $\{x_n\}$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) は Cauchy 列デアリ.  
 従ツテ假定ヨリ  $\lim_{n \rightarrow \infty} x_n = x$  が存在スル. トコロデ,  $x$

ノ屬スル剩餘類  $r_x =$  對シテ  $\lim_{n \rightarrow \infty} r_{B_n} = r_x$  が得ラ

ル, 又  $\lim_{n \rightarrow \infty} r_{A_n} = r_x$  トナル. (証明完了)

今,  $R$  ト  $R/\mathfrak{A}$  トノ關係ヲ考へルタメ  $x = R_1$  及  $R_2$  ノ  
 中ニ寫ス open uniformly homomorphism  $\varphi$  ト  
 ヲ取ル.  $R_1$  ノ要素  $x$  デ  $\varphi(x) = 0$  ヲ満足スル  $\varepsilon$  ノカラ  
 ナル集合ヲ取トスルニ, 此ハ  $R_1$  ノ兩側 ideal デアル.  
 其処デ, 此ヲ法トスル  $R_1$  ノ剩餘類  $r_A$  ト  $R_2$  ノ要素  $\varphi(A)$

トヲ對應セシメルト,  $R_1/\mathfrak{A}$  ト  $\varphi(R_1)$  トノ間, 代数的同型寫像が得ラレル. 今, コレが両側連続ナルコトヲ示ヤウ.  $\varphi$  (t), 連続ナルカラ,  $A \in R_1$ ,  $\varepsilon > 0$  トニ對シテ  $\delta > 0$  ヲ求メテ  $|A - X| < \delta$  ノトキ  $= |\varphi(A) - \varphi(X)| < \varepsilon$  トナシ得ル. 然ルニ,  $|A - X| < \delta$  ノトキ  $= \wedge |R_A - R_X| < \delta$  デアツテ, シカモ逆  $= |R_A - R_X| < \delta$  ノトキ  $= \wedge |A - X| < \delta$  ヲ満ス  $X'$  が  $R_X =$  含マレ  $R_X = R_X$  デアル. 夫レ故ニ  $R_A = \varphi(A)$  ヲ對應セシメル寫像ハ連続ナル.

次ニ,  $\varphi(A)$  ハ open ナルカラ,  $A \in R_1$ ,  $\varepsilon > 0$  トニ對シテ  $|A - X| < \varepsilon$  ヲミタス  $X$  ノ集合,  $\varphi$  (t) = 關スル像ハ  $R_2$  ナ open ナル. 従ツテ  $\delta > 0$  ヲ求メテ  $|\varphi(A) - \varphi(X)| < \delta$  ヲ満タス  $\varphi(X)$  が今考ヘタル集合ニ含マレルヲ示シ得ル. 夫レ故ニ  $|\varphi(A) - \varphi(X)| < \delta$  ノトキ  $= \wedge \varphi(X)$  ノ原像  $X$  ナ  $|A - X| < \varepsilon$  ヲ満スルガアル. トコロナ  $|A - X| < \varepsilon$  ノトキ  $= |R_A - R_X| < \varepsilon$  デアルカラ,  $\varphi(A)$  ナ  $R_A =$  寫ス寫像ニ亦連続ナル. 従ツテ  $R_1/\mathfrak{A}$  ト  $\varphi(R_1)$  トハ uniformly isomorphic ナル. 即チ

定理 3. Normed ring  $R_1$  ナ  $R_2$  ノ中ニ寫ス open uniform homomorphism  $\varphi$  (t) = 對シテ  $\varphi(X) = 0$  ヲ満ス  $X$  ノ集合ヲ  $\mathfrak{A}$  トスレバ,  $\mathfrak{A}$  ハ  $R_1$  ノ兩側 ideal ナアツテ,  $R_1/\mathfrak{A}$  ハ  $\varphi(R_1)$  ト uniformly isomorphic ナル.

トコロデ、 $R_k (k=1, 2)$  が共 = *uniformly complete* ノトキ = ハ 定理 3 = 於ケル  $\varphi(t)$  ノ条件ヲ *uniform homomorphism* デ置キ換ヘ得ル、即チ

良環系、 $R_k (k=1, 2)$  ヲ *uniformly complete normed ring* トスルトキ =、 $R_1$  ヲ  $R_2$  ノ上ニ寫ス *uniformly homomorphism*  $\varphi(t)$  = 對シテ  $\varphi(\mathfrak{A}) = 0$  ヲ満ス  $\mathfrak{A}$  ノ集合ヲ  $\mathfrak{I}$  トスレバ、 $\mathfrak{I}$  ハ  $R_1$  ノ両側 *ideal* デマツテ、 $R_1/\mathfrak{I}$  ハ  $\varphi(R_1)$  ト *uniformly isomorphic* デアル。

此ノ定理ノ証明ハ補助定理 2 ヲ利用スレバヨイ。

次ニ、 $R \neq 0$ 、 $R$  以外ニ右 (左又ハ両側) *ideal* ヲ含マナイモノヲ右 (左又ハ両側) 單純ト呼ブ。右 (左又ハ両側) 單純 *ideal* ニ同様ニ定義スル。スルト、次ノ定理ガ得ラレル。

定理 5.  $\mathfrak{I}$  ヲ *normed ring*  $R$  ノ両側最大 *ideal* トスレバ、 $R/\mathfrak{I}$  ハ両側單純デアアル。

証明.  $R/\mathfrak{I}$  ガ両側單純デナケレバ、コレハ 0、 $R/\mathfrak{I}$  ト異ナル両側 *ideal* ヲ含ム。其ノ一ツヲ  $\mathfrak{J}$  トスルトキニ、 $R$  ノ要素  $A$  ガ  $\mathfrak{J}$  ヲ法トスル  $R$  ノ剰餘類  $R_A$  ガ  $\mathfrak{I}$  = 含コレルモノヲモ、カラナル集合ヲ  $\mathfrak{J}$  トスレバ、 $\mathfrak{I} \subset \mathfrak{J} \subset R$  デアル。トコロデ、 $\mathfrak{J}$  ハ  $R$  ノ両側 *ideal* デアル。即チ、 $A \in \mathfrak{J}$ 、 $B \in R$ 、トキニ  $R_A R_B = R_{AB}$ 、



$\bar{R}_B \bar{R}_A = \bar{R}_{BA}$  の共  $\subset \mathcal{M} =$  含マレルカラ、 $AB, BA$  の共  
 $= \mathcal{J} =$  含マレ、 $\mathcal{J}$  の両側 algebraic ideal デアルが、  
 $\mathcal{M} = \mathcal{J}$  の  $R =$  於イテ uniform topology = 閉シテ  
 開ケテ居ル、何トナレバ、 $A \rightarrow \bar{R}_A$  の寫像ハ uniform  
 topology = 閉シテ連続デ、シカモ  $\mathcal{M}$  の  $R/\mathcal{J} =$  於  
 イテ uniformly closed デアルカラデアアル。コレ  
 の  $\mathcal{J}$  の定義ニ矛盾スル、夫レ故ニ  $R/\mathcal{J}$  ハ両側單純デア  
 ル。 (証明完了)

今、normed ring  $R$  ノルテ、両側最大 ideal  
 ノ共通部分ヲソノ根基ト呼ビ、夫レガ  $0$  デアルモ、ヲ準單  
 純ト呼ブコトニスル、 $\mathcal{J}$  ヲ  $R$  ノ両側最大 ideal トスレバ  
 定理 5 ニヨツテ  $R/\mathcal{J}$  ハ両側單純デアアル。其処デ、此様ニ  
 両側單純環ノ集合ヲ  $\mathcal{J}$  トシ、 $A ( \in R )$  ノ含マレル  $R/\mathcal{J}$   
 ノ剰餘類ヲ  $A_{\mathcal{J}}$  デ示スコトニスル。スルト、 $R$  ノ各要素  
 $A = \text{ハ } \mathcal{J} =$  テ定義セラレ、 $R/\mathcal{J}$  デ  $A_{\mathcal{J}}$  ヲ植トスル函数  
 $\text{--- } \oplus_A = \text{テ示ス ---}$  ガ對應スル。其処ガ  $\oplus_A$  ノ全体カラ  
 ナル集合ヲ  $\mathcal{R}$  トシ、 $\oplus_A$  ノ絶對値  $|\oplus_A|$  ヲ

$$|\oplus_A| = \sup_{\mathcal{J}} |A_{\mathcal{J}}|$$

デ示セバ、 $R$  ハ normed ring トナル。トコロデ

$$\oplus_A \pm \oplus_B = \oplus_{A \pm B}, \quad \oplus_A \oplus_B = \oplus_{AB}, \quad \alpha \oplus_A = \oplus_{\alpha A}$$

ガ成立チ、シカモ  $R$  ノ準單純性ヨリ  $A$  ト  $\oplus_A$  トノ對應ハ一對  
 一デアアル。即チ、 $R$  ト  $\mathcal{R}$  トハ代数的同型デアアル。コレガ準

単純環、両側単純環、直和、分解であるが、此処で種々の問題が起る。例へば  $A \leftrightarrow \bigoplus A$  の対応の連続性の問題がある。  $R$  が *uniformly complete* であるならば、此の対応は *uniformly isomorphism* となるが、一般の場合にどうだろうか。又  $\mathfrak{R}$  = 如何なる *topology* を導入すべきであるか。更には単純性と両側完全可約性との関係はどうだろうか。

(西大 = 三六八)